

## 2025 年度事業報告書

2026 年 5 月 30 日（土）

公益財団法人 日本動物愛護協会

### I. 総 括

本協会は 2012 年（平成 24 年）4 月 1 日をもって、内閣府の認可を得て「公益財団法人日本動物愛護協会」へと改組した。

2025 年度も、環境省並びに各自治体、関係団体、企業等のご理解とご協力のもと、多彩な動物愛護事業の推進、拡大に努めてきた。

全国的なペットの防災に関するイベント等を企画・開催し、業務の拡大に努め、異業種の企業や団体などとの情報交換、連携を更に続き強化させた。

啓発事業については啓発冊子、飼い主との絆を描いたアニメーションを講演・イベント等で幅広く活用した。

その他にも「地域猫活動」「犬と猫の熱中症対策」の啓発を行い、猫の虐待、トラブルの減少、犬と猫の熱中症の予防に努めた。小さな命の写真展、和歌山電鐵・JR 山手線を使用した飼い主責任の啓発事業は継続的に展開した。

子供たちに対する動物愛護の啓発は、高校生、中学生、小学生に向けた出張授業「動物愛護教室」「命の授業」を行った。

現状継続している、「動物の愛護及び管理に関する法律」の趣旨に基づいた普及啓発事業、災害時動物救援事業、顕彰事業、この 3 項の公益目的事業については、毎年事業規模を拡大し、新たな事業にも取り組みながら充実してきている。

### II. 公益目的事業

#### 1. 「動物の愛護及び管理に関する法律」の趣旨に基づく普及啓発事業

##### 1) 動物の命を守る活動

###### ①電話相談・メール相談

2025 年度は全国から動物に関わる電話やメールによる相談・問合せが多数寄せられ、職員 3 名にて対応した。電話相談は 1,145 件、メール相談は事務対応が中心の 291 件が寄せられ、内訳は別紙資料のとおりである。長寿表彰に関して、全国からの問合せが後を絶たなかった。

電話相談ではペットショップやブリーダーからの購入に関してのトラブルや動物愛護団体や譲渡に関するトラブルが多く寄せられた。また本協会への問合せの 1/3 が寄付に関する内容で、そのうちの 1/3 が遺贈に関してであった。今年度後半はクマに関してのご意見も多く寄せられた。野生動

物等による問題については専門団体などと連携を強化している。

## ②譲渡事業等

月2回（犬猫各1回）、譲渡会を定期開催している。法人会員「株式会社EG Service」の紹介により無償での会場（動物病院）提供があり、来場者数は開催当初より1,500名を超え、スムーズに運営できている。この譲渡会で、新しい家族とのご縁が結ばれた犬猫が多数でている。

また会場では、来場者やボランティアの生の声を聞くことができ、動物たちの置かれた状況等を肌で感じ、貴重な時間となっている。

株式会社レティシアンからの支援フード先を仲介する中で、全国の動物愛護センターや動物愛護団体等と関係・協力体制構築に努めた。

物価高の影響により、ボランティア（個人・団体）の活動は困窮している。本協会に届く個人からの物資寄付（フードや消耗品等）や法人会員「株式会社フェニックス・アインツェル」より消耗品（うんち処理袋やウェットティッシュ等）寄付等を全国のボランティア（個人・団体）へ支援した。また、3年に1度の渋谷区の防災備蓄フードの入替時期であったため、このペットフードも支援の対象とした。

株式会社ファミリーマートより「2月22日ねこの日、ファミリー〜にゃ〜ト大作戦！」と銘打ち2023年よりキャンペーン対象商品の売上の一部を本協会の「地域猫活動」にご支援いただいている。昨年引き続き、今年は店舗数を倍増し「ペットフードドライブ」を開催、ペットフードの寄付BOXを設置した。近年、“ペットフードロス”が問題となる中、ご家庭に眠っているペットフードをファミリーマート店舗にお寄せいただき、本協会へご支援いただいた。

また、株式会社ファミリーマートとの新たな取り組みとして『保護猫写真展』を限定店舗で開催した。イートインスペースを利用して、保護猫の等身大パネルを設置。名前、年齢、パーソナルな情報とQRコードを記載し、気になる保護猫達にアクセスできる出会いの場となった。

## ③普及啓発事業等

2025年度も飼い主に必要な10の条件のポスターを、希望する全国の小中学校、高等学校へ配布した。

光村図書出版発行、中学道徳教科書「きみがいちばんひかるとき」にこのポスターが採用されていることにより、子どもたちに対する動物愛護の啓発に役に立っている。

## ④飼い主のいない猫の不妊去勢手術費用助成事業

「今を生きている命は大切に、不幸な命は生み出さない」をスローガンに、10年目となる2025年度も飼い主のいない猫を対象とした不妊去勢手術費用助成事業を行った。殺処分される動物の大半が猫のため、不幸な猫を生み出さないためにも、この事業は継続していくことが不可欠である。

2025年度よりオンライン申請を導入し、より申請しやすいよう改善を行った。

また、2025年度も第6弾JSPCA『猫の日』企画「飼い主のいない猫応援キャンペーン」と称し、昨今の物価上昇の中で活動する全国のボランティア（個人・団体含）に向け、日頃JSPCAをご支援して下さる方々の気持ちを支援物資という形に変え、思いを込めて配布した。

## ⑤他団体・他業種との協力

日本気象協会との協働も8年目となり、2025年度も「ペットの熱中症対策マニュアル2025」を作成し、全国の動物病院、行政を中心に約100,000枚を配布した。また、熱中症予防のポスターもマニュアルと同時に動物病院へ配布を行った。

また、自治体等が設置する委員会・協議会等への委員派遣については、田畑理事長を東京都動物愛護管理審議会へ、廣瀬常任理事・事務局長を東京都動物愛護推進協議会、東京都動物教室及び研修企画選定委員会に派遣した。

AIPO＝動物ID普及推進会議は、動物愛護の公益3団体と（公社）日本獣医師会にて構成し、動物の所有に関する個体識別を明示する措置であるマイクロチップの普及推進に努めた。

## 2) 人と動物のための社会への提言活動

### ①動物愛護キャッチコピーコンクール

第26回動物愛護キャッチコピーコンクールは、環境省の後援を得て、動物愛護週間中央行事のキーワード、「人もどうぶつも守る防災術」と連動させて募集した。

全国から総数335作品が寄せられた。厳正な審査の結果、環境大臣賞（最優秀賞）には、「一緒だよ 楽しい時も もしもの時も」が選ばれた。

### ②動物愛護週間ポスターのデザイン絵画コンクール

動物愛護週間中央行事の一環として、環境省より委託を受けて開催した。「ペットと防災」をテーマに募集し、全国の教育委員会、私立小中高等学校等2,516件へ募集案内を発送した結果、94件の応募があった。厳正な審査のもと、最優秀賞1点、優秀賞5点を選定した。最優秀作品は、動物愛護週間ポスターとして採用され、環境省より全国の自治体等に配布された。

### ③各種啓発事業

多くの方に動物愛護週間を知ってもらうため、9月22日～9月28日までJR山手線全車両の「まど上チャンネル」を使って、飼い主責任を訴え、広く一般の目に留まるよう啓発を行った。

和歌山電鉄での動物愛護のラッピング電車は、2025年度も継続して走行させ、地域の住民、子どもたち、観光客への啓発に役立っている。

その他啓発では引き続き、啓発冊子、アニメーションを「命の授業」「動物愛護教室」「防災ワークショップ」で積極的に活用し啓発に役立てた。

### ④情報発信

ホームページは随時見直しを行い、人と動物の共生社会構築に向けた内容を充実させた。Instagramとフェイスブックを有効に活用し、協会情報、啓発、後援事業、新しい家族を探す活動の情報、長寿表彰等の発信をした。

ペットの熱中症についてもホームページ内に展開している犬や猫の熱中症予防について、ポスターと連動させるなどさらに充実させた。

### ⑤健全な動物観、生命観のためのメディア対応

本協会の活動内容、地域猫活動、ペット防災等について、メディア等に対して発信を行った。

### ⑥動物愛護週間中央行事・その他イベント出展・後援

動物愛護週間中央行事実行委員会（実行委員長：本協会 田畑理事長）の中心となり、イベントの企画・運営・実施の行事全般にわたる調整ならびに運営を行った。

2025年度は、「人もどうぶつも守る防災術」をテーマに、屋内行事は9月23日（火・祝）国立科学博物館で、屋外行事は11月15日（土）に上野公園不忍池周辺にて日本獣医師会主催2025動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”と合同で開催した。

他団体の開催するイベントに関しても極力、参加協力し、啓発冊子や広報誌のバックナンバー等の配布を行い、積極的に協会の活動をアピールした。

### ⑦相談事例分析・調査研究

相談電話・メールの統計調査について統計調査を継続している。2025年度も不妊去勢事業の申請者からのアンケート調査を実施、分析を行い、広報誌「動物たち」で公表を行った。

また、活動者が何に困っているのかをリサーチし、支援物資の配布やホームページ内「地域猫相談室」を充実させ、A4サイズの冊子を完成させ、全国の動物病院・動物愛護センター等へ配布を行った。

## 3) 命の大切さを知ってもらう活動

### ①動物愛護講座

地方自治体（杉並区）からの講座依頼受け、講演等を行った。区民の側に立った有意義な講座となるよう、毎年講師の見直しを行っている。

### ②家庭教育、青少年教育

2025年度も全国の小学校、中学校、動物愛護団体、動物愛護活動家へ、写真展パネルの貸し出し、飼い主に必要な10の条件のポスター、啓発冊子を全国の教育委員会、全国の私立小学校・中学校・高等学校、約2,500校へ配布した。

また、動物愛護週間に、動物愛護教室として取組んでいる「命の授業」と内容のリンクした図書「かがやけいのち！みらいちゃん」と、新たに推薦図書として「ななちゃんは、みんなのねこ」を選定し、協会からのメッセージを加えた特別バージョンを、全国の放課後児童クラブ、7,000カ所へ献本を行った。

### ③動物愛護教室・命の授業

総合的な学習の一環として、希望する学生を主な対象として、「動物愛護教室」「命の授業」を開催し、動物たちの置かれている現状や、動物を飼うために必要なことなど動物愛護の基本的な事項について考える機会を提供している。

2025年度は、今西常任理事が提供する「命の授業」を希望する小学校、中学校、高等学校、大学、少年院、学童保育、図書館で合計43回、計3,077名に対して開催した。献本事業との連携により学童保育

からの申し込みが大幅に増加した。また、次年度からの開催に向けて「命の授業」について文部科学省の後援を得るための準備をした。

職員が担当する「動物愛護教室」は中学校1校に対して行った。

#### ④会員・寄付者拡大事業

ホームページを中心に本協会の基本方針、動物愛護、里親事業、青少年への動物愛護教育等の取り組みをアピールし入会者の拡大に努めたが、物価高騰、景気の悪化に伴い新規入会者、寄付者共には減少した。

#### ⑤賛助会員事業・広報誌「動物たち」発行

「JSPCA Special Day」は「防災ワークショップ」と絡めて行う計画を立てており、2025年11月開催を目標に準備を進めている。

広報誌「動物たち」は滞りなく年4回発行し、事務局が編集部となり動物に関する旬な話題、協会の活動内容などを読者に伝え、内容を充実させた。

## 2. 災害時動物救援事業

地震・噴火・台風等の自然災害発生に際しては、被災地の動物愛護管理行政部門並びに関係団体と連携を図り、動物の救援活動を実施する体制を整えた。

併せて、ペットフード、ペット用品等の動物のケアに必要な物資については(一社)ペットフード協会、(一社)日本ペット用品工業会、(一社)全国ペットフード・用品卸商協会、(一社)日本ペットサロン協会で構成される「ペット災害支援協議会」と連携を取りながら支援要請に応えることとした。

平時の啓発として2025年度も本協会主催「防災ワークショップ・災害からペットを守る」を実施し、講師を平井評議員に依頼し、運営は(一財)NHK財団と協力し、番組で人気のチョコちゃんを登場させ、幅広い年代への啓発を行った。回を重ねるごとに内容も充実してきており、自治体からの開催依頼も協力も増えてきている。2025年度は、札幌市かでのホール(北海道)、福岡市民ホール(福岡県)、安城市民会館(愛知県)にて開催した。今後も全国で年4カ所での開催を計画している。

## 3. 顕彰事業

### ①長寿動物表彰

長寿表彰は、飼い主からの申請に基づき、長寿動物として無料で表彰し、飼い犬・飼い猫の写真入りの賞状を贈呈する。

表彰を受けた飼い主からは多数感謝の言葉、ご寄付を頂き、その後、会員へ移行する方も多い。表彰月末にはフェイスブックで紹介し、広報誌「動物たち」4月号では年間の表彰動物一覧を掲載し、大変好評を得ている。

2025年度は、犬1,443頭、猫709頭、合計2,152頭の表彰を行った。最高年齢は表彰時、犬は23歳、猫は26歳であった。猫は全体の85%が雑種(ミックス)に対し、犬はバラエティに富んでいる。

犬猫が長寿を迎えるということは、動物たちが適切に飼養されていることの証ととらえることができ、人と動物との共生社会、動物の福祉が適切に進んでいる裏付けともいえる。この顕彰を続けていくこと

により、適正飼養・終生飼養を広く啓発していく。

## ②動物愛護表彰

2025年度は、株式会社 レティシアンに対して表彰を行った。

## Ⅲ. 法人運営

### 会議開催

2025年度における会議の開催は、通常理事会2回、臨時理事会2回（内1回は書面による開催）、定時評議員会1回、臨時評議員会（書面による開催）1回、監査会1回であった。

また、本協会の円滑な運営を図るため、常務会(執行役員会)は13回開催した。